

世界遺産で就業研修

アンコール 遺跡 金大生が来月成果報告



カンボジアの世界文 化遺産アンコール遺跡 ンシップ(就業研修)

を行った金大の学生と 同行教員が、21日まで

に帰国した。同大とし て初めて海外機関で実 施した研修で、11月に 開く報告会で成果を公 開する。

研修は同大とアンコ ール遺跡整備公団が2 月に結んだ交流協定に 基づき9月4～18日に 実施、全学から公募し た学生12人が同公団で 働いた。1992年か ら遺跡公園での国際調 査に携わる環日本海域 公団の制服を着て交通 量調査に取り組む学生 119月、カンボジア・ア ンコール遺跡公園(金 大提供)

環境研究センターの塚 脇真二教授、国際学類 の粕谷雄一教授が同行 した。

塚脇教授によると、

広さ約4万坪に及ぶ遺 跡公園を管轄する公団 の業務は、遺跡保全の ほか水質、大気汚染の 調査、観光政策や都市 計画の立案など多岐に わたる。

学生たちは主に、公

園内の交通量調査や大 気汚染に関する住民意 識調査、公園内への人 口集中や環境汚染防止 を目的に建設が進む

「エコビレッジ」や滞 在型観光客向けに計画 中の遊歩道の現地調 査、視察に取り組んだ。

塚脇教授は「来年度 以降も研修を継続して 交流を深めたい」と話 した。